

第2B（小）分科会 一子どもの発達に関する課題一

提案主題 特別支援教育の充実
～校内の特別支援体制づくりと教頭の関わり～

司会者	日田市立有田小学校	松本祥一
提言者	日田市立三芳小学校	菅原寿明
助言者	玖珠町立森中学校校長	川野俊太郎
記録者	日田市立東溪小学校	伊藤英二

1 協議の柱

- ・特別支援教育を推進する中で教頭は特別支援教育コーディネーター（以下CN）とともにどのような役割を果たすことが有効であるか。

2 協議の実際

(1) 主な質疑・応答

Q：特別支援体制改革に至った課題

A：担当者が個別に判断していた状況があり，組織的な対応が必要であった。

Q：特別支援定例会での教務主任の動き

A：教務（三芳小では主幹）とCNの役割の棲み分けをしているので定例会に教務は入らない。

(2) 教頭の役割についての協議

①CNへの支援

CNが学級担任であることも多い。支援員や保護者，関係各所との関わり等で動きにくい場合には，サブCNを置く・ケース会議の設定・支援学校との連携等の支援が考えられる。逆にCNが主体的に動ける場合にも，コミュニケーションがとれているか等の確認が必要ではないか。いずれにしてもCNの困りを把握し必要であれば支援をしていくことが大切である。

②校内の共通理解の場設定

学校規模により教頭の役割も多少異なるが，児童等について共通理解し学校全体で連携を図るための情報交換の場を設定すること。

③連絡調整

支援が必要な児童の保護者へ特別支援教育についての情報提供をする役割も考えられる。

3 指導助言

特別支援教育においてCNは，校内外の連絡調整・保護者との相談窓口・他の先生方への支援等多岐に渡り，鍵となる役割をもつ。CNだからできる専門性が必要な仕事，逆に教頭にしかできない仕事があるだろう。十分協議し教頭とCNとの役割の棲み分けをするとよい。

CNがうまく機能できない場合は，日常的な進捗状況の確認，協議，教頭がもつ外部情報の提供によりカバー・支援をしつつ，CNがより動きやすくすること，CNとしての人材育成を図ることが教頭としての重要な役割である。

何より支援体制が子どもたちに返っているのかが重要であり，そのためにも進捗状況を常に確かめることが重要な役割である。